明治四十四年九月廿五日納本發行（毎月一回一日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

第八巻第九號

あゝ神よ、鹿の溪水をしたひ喘ぐがごとく、わが靈魂もなんぢをしたひあへぐなり。わが靈魂は渇けるごとく神をしたふ、活神をぞしたふ、何れの時にか我れ行きて神の御前にいでん、彼れ等が終日われにむかひて、世の神は何處にありやとのゝしる間は、たゞわが涙のみ晝夜注ぎて、わが糧なりき。われ昔群をなして祭日をまもる衆人と共に行き、歡喜と讃美の聲をあげて彼れを神の家にともなへり、今これらの事を追想してわが衷より靈魂を注ぎ出すなり、あゝわが靈魂よ、なんぢ何ぞうなたるゝや、なんぞわが衷におもひみだるゝや。なんぢ神をまちのぞめ、われに聖顏のたすけありて、我なほわが神を讃め稱ふべければなり――詩篇四十二篇。

日本基督教女子青年會發行

明治の女子　第八巻第九號

目次

感謝（一）……小此木まつ子
歸國の御挨拶（四）……マグドナルド
近頃の見聞と所感（七）……小橋三四子
（傳記）西班牙の聖女テレサ下（九）……白井胤祿

女子青年會夏期修養會講演（一）
家族に關するイエスの敎訓（一二）……井深梶之助
生命の生命（一六）……留岡幸助
ジョルダン博士の講演（二三）……

各地に行はれたる修養會報告
妙義山上に於ける外國人修養會……
（盛岡女子青年會）主催の夏期修養會……
米國女子青年會夏期修養會……
英國學生青年大會の記……在英　宮川幹枝子

會の消息（三〇）……
女子學院、宮城女學校、青山女學院

明治の女子

一、「明治の女子」は日本基督敎女子青年會中央委員が發行する雜誌也。
一、「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢、一部郵税共金五錢とす。
一、日本基督敎女子青年會は女子の衞生、社交、智識、靈性上の發達を圖るための團體也。
一、日本基督敎女子青年會中央委員左の如し。

委員長　井深花子
副委員長　岡見惠子
記錄書記　サラ、エリス
會計　フイシャー
萬國基督敎女子青年會同盟委員　河井道子
萬國學生基督敎同盟會委員　宮川すみ子

東京在住委員
エ、ビー、ウエスト　井上友子
平野濱子　鈴木歌子
中島小春　三谷民子
安井哲子　小此木まつ子

地方在住委員
大阪　ケー、ツリスツラム　京都　佐伯小糸
京都　デントン　名古屋　ウインウイルソン
鹿島　エヌ、ビー、ゲインス　神戶　デフチレスト
大阪　荒木幸子　函館　エム、プラウンロー
日本基督敎女子青年會幹事　エー、シー、マクドナルド
同副幹事　エム、エル、マシウ
エム、エス、ケエル

米國シルバ アベエに 集ひし各國代員

日本人十四名、支那人一名、印度人一名、メキシコ人二名、佛國人一名
英國人一名、△記事參照▽

修養會小集

上　妙義山上に於ける外國人夏期修養會　下　盛岡女子青年會開催の夏期修養會

◁記事參照▷

明治の女子　第八巻第九號　（明治四十四年十月一日）

感謝

小此木まつ

今の世は住み難い、人情が浮薄だ冷酷だといふ聲を絶えず耳にいたします。又今の人は多く自我本位て、自分に都合のよいもの、心持のよい事ばかりを歡迎し、あとは、野となれ山となれ、不平不滿は大聲を立て〻、世間へ怒鳴り、それが爲に他人が氣持を惡くしやうが、損害を受け樣が、我關せず焉で、すまして居る、といふ樣な批評は是を聞く度毎に、まことに耳が痛いどころでは無く、はつと、思つて我と吾心に顧られる次第でございます。

皆樣方の中には、日夜の修養をお積みになつた結果、餘程高い道德上の地點に迄進まれ、我々の樣につまらぬ誘惑の爲に、朝夕苦闘して居るものを、憐れと御覽になる方もございませう、しかし、人間である以上、誰しも皆、高かれ低かれ進歩の道程に居るので、「是で絶頂に達いた」と、叫び得るまでにはまだまだ遙か程遠い事と思はねばなりませぬ、さすれば、今、向上發展の途に居る——少くとも其途に居ると自信して居る私共は、充分に氣を大きくして我を省み、過れるを正し、人生の眞の光明を認めるの用意か最も大切ではありますまいか。

さて、人生の眞の光明といふは、何處に輝いて居るものかと四方八方見廻しましても、私共が、自己本位であり、我利々々である間は、到底是を認める事は出來ませぬ、何故かといふに、世の中の事々物々は、皆樣も御經驗なさつた通り、決して私共の慾望を滿足させる爲にばかり出來て居るものではありませぬ。時には、何うして斯うも、爲す事毎に、自分の希望に違ふのだらふと不思議に思はれる程、失敗や蹉跌の多いものですのに、若しも私共が、自我本位で、一から十まで、己れを喜ばせ、己れを滿たすにばかり汲々して居つたならば、失敗の起る度毎に、氣も挫け、心も荒むで、此世の光明を認めるどころか、まことに哀れな、不平に充ちた敗者とな

つて終ふ事でせう、斯うなり果てゝは、人を見ても自然を見ても心の暖まり潤ふ事はなく、我と我身を枯してゆく様なものです。そうして遂には人を呪ひ世を呪ひ、神をまで呪ふて、暗きより暗きに退くてとゝなつて終ひます。

それならば、何うして此寒心す可き暗の道を避け様かと申しますと、何よりも先づ、唯、自分〳〵の着眼點を高くするのが、第一だらふと思ひます。即ち日毎々々の出來事は、決して直接自分を喜ばせる爲に許り起つて來るものでは無いといふ事を悟つて我々の短氣な考へ、快樂一點張の頭で、一概に物事の評價を下さぬ様にしなければなりませむ。吾々の造り主、自然の造り主である其大いなる神の思召が何うして、直ちに私共人間に、分りませうか、非常なる、困難災厄と思はれる事の中に、最偉大なる恵を垂れ、敎を加へられてある事は、私共の多くが、折にふれて、經驗して居ります事です、唯其攝理に信頼し、眼に見ゆる、見えざる恵みの敎へを習び、朝な夕な、事々物々に就て、其敎のある所を見是を感謝して過したならば、實に此世は美はしく、温い光に輝いて見える事でござひませう。

人間の心の繊弱さは、唯、僅かの試みにも挫かれて徒らに、他人を羨み、我身をかこつ事も度々でございます、一つ嫌な心配事でも起つた時には、やたらに、他の方々が愉快さうに氣樂さうに思はれ、どうして、自分ばかり、此様な目に遇ふ事かと、何とも言はれず悲しく、情なく感ぜられますが、しかし一度翻つて氣を取り直せば、時の經つに從つて、だん〳〵と恵みの光がほのめき初めるものです。唯心を靜め、思ひを凝すだけの覺悟と準備とが、常に必要でございます。彼の慈善と申し、犠牲といつても、お勤め的に物を施し、義理にせまりて、働きをするといふのでは、眞の値價はございますまい。まことの喜悦と、眞の温情とを以て、感謝の念に溢れて爲す慈善、犠牲に於てはじめて其貴さは見られるのでせう、世界の公共事業に働かれる方々の中に、其名の知られたると、知られざるとを問はず、此まことの感謝の念より出て、其財と力と時とを傾けて居らるゝ人のある事を見聞するのは、實に心を强うす可てきはありますまいか。

此夏も、本會では、修養會を鵠沼に開かれ、皆様方の中よりも澤山に御出席になつたと伺ひました、

實は私も、長い間樂しみにして前々から、御相談會などにも出などいたし、其時の來るのを心待ちにして居りますと、思ひがけ無い公用のために、七月の末近く迄在京する事になり、折角樂しむだ會は、のぞく事も出來ぬ始末となりました、是は私にとつて少なからぬ失望でございました、皆樣と共に、床しい、神聖な一週間を過すはづのが、燒ける樣に暑い塵の東京で、朝から晩まで、働くことになりましたから、不平は中々止みませんでした。然し、靜に考へてみますと、私は決して無意義に此處に留められたのでは無かつたに相違なく、自分は自分だけの務めを此地で盡すと同時に、彼地の盛會の有樣、皆樣の御滿足の御話を、方々から伺ひ、まことに、嬉しく其悦びを皆樣と分つた次第でございます。

たとへ現在眼の前に橫はる影は小暗くとも、見えざる光、隱れたる光明を深く身にしめ、喜ばしき人、神を讃美するの人となつて、世に交つたならば、地上の和樂を增す上に、どれ程、扶けとなる事でせうか。

感話

艱難にも迫害にも病苦にも貧窮にも、除ろに神の攝理を考へ、感謝を以て之れに打勝つ事を敎へ給へるイエスの敎訓を見て「基督敎は餘りに明る過ぎる」と申します、同じ天地の眺めも、夕への幕に包まるゝ時は、更らに幽玄を覺ゆるものです、さればとてとことはに晝なき國に住む事が人の矜りでありませうか、否々我々の生命の意味は晝間が與ふるものであります。我々が感謝てふ光明に住ふ時に始めて萬事に意味を生ずるものである。一事を爲し終へて後感謝の念なきものは、その暗黑面のみを捉らへて心を曇らし、淚を以て自らを慰むるのが容易ならぬ一つの仕事であります。之れに反して感謝の念を持てば、災も却つて我が身の親しき友の如くに力を與ふるものであります。我々の力は浪費するには餘りに乏しくはありますまいか。その力を擧げて光明を追ふ努力に用ひ度きものであります。（三四子）

歸國の御挨拶

日本基督敎女子青年會總幹事　マグドナルド

今から申せば、丁度一年半ばかり前に私が一寸歸國致します際に、或御老人が、私に、少さな虎の造り物を下さいまして、是と一所に何卒又日本へ來ます樣にと仰いました、其後クリスマスの時には、又日本の或友達から、お爺さんの畫を送つて來て、東洋へ歸るお迎えだと言つてありました、此虎とお爺さんのお蔭でもありませうか、私も何千萬哩といふ長の旅からとう／＼また此第二の故鄕へと戾つて參りました、まことに此過去一年餘の間はあとから／＼追ひ立てられる樣に、氣急しく忙しい旅の空で暮しましたので、其間には幾度となく彼詩編の百二十一章、旅人の慰めと人の申しますあの「エホバはなんぢを守りて、もろ／＼の禍害をまぬかれしめ、並なんぢの靈魂をまもりたまはん、エホバは今よりとこしへにいたるまで、汝の出づると入るとを守り給はん」の句を心に繰り返した事で御座いました。

旅を致して居ります間に私の最強く感じました事は、今の世は實に過去の歷史上、比較す可きもの、無い程に非常に偉大な、驚く可き時代であるといふ事でございます、但し每々同じ事を繰り返し、自分の手許だけを見て暮して居りますと、一寸廣く眼を着け難くなつて、是等の事にも氣が付かぬことも間々あります、先づ、一口に現代の特徵を擧げていへば、全世界、此地球上が全く融和して一つの物となつたとでも申しませうか、此れ未だ甞て吾々人間の歷史に現はれた事の無い新現象で今迄に東洋といひ西洋といつて別々に考へられて居りましたものが、政治上、社會上、又宗敎上に漸々接近して參り、東西洋のお互の間に並ふ可らざる密接の關係が起つて參りました、それで皆樣方や私共の樣に、此世にありとあらゆる萬物の後ろには活きたる主能者の在すことを信じます者から見れば、此現象こそは、基督御自身が、禱り給ふた「こは皆一つにならむが爲なり、」(約翰傳十七章、二十一節)との御心の實現せられたものなることを疑ふ事が出來ません、兎に角に、今の有樣で見てさへ或一國か、他國との關係を全く無視して、國家問題を處理する事は出來ぬといふ所まで、國際關係が密接になつて居ります、從

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて何處の國に致しましても、從來の樣な極々、狹い意味の愛國心だけでは、足らぬ事になつて參りました、即自國を愛すると同時に、世界同盟の一員であるといふ感じが、必要な事になり、人は自國をのみ愛するを以て足れりとせず、人類を愛するを以て光榮たらしめねばならぬ」といふ所迄進みました。彼の四海同胞といふ言即世界の果から果まで、否一人の神の御心の前には、四海は皆同胞であるといふ觀念が近來私共の間に大分解りかけて參つた樣に思はれます。

一體或一國の國内の事情と、其國か他國に及ぼす影響とは離る可らざる關係があるもので御座いますが、此に眼を着けた學生會議では來年匆々英國に一會を催して、東洋傳道の狀況と並びに基督敎國内の社會狀態を調ることに決しました、實に耶蘇敎國と自ら呼ぶ國々にして、キリストの眞の敎に背いた事を敢てして居る間は決して世界に此敎を廣める事は出來ませむ、凡ての生活が神を中心として來るので無ければ決して眞の救ひを求める事は出來ますまい、此點から考へますと現代敎育ある各國の男女が熱心なる態度を以て一身問題、國家問題並びに社會問題を研究なさるのに單に各自各國の見地からのみて無く、世界の幸福といふ事をも其考に入れて居られるのは、まことに心を强うするに足る可き事でございませう、昔、基督のお禱りの中に「御國を來らせ給へ、御心の天になるか如く地にもならせ給へ」とあつたのを、今にして吾々は感じますのでございます。

又此全世界の融和しつゝある一つの徵とも見るべきは國際平和問題の發展でございます。昔は個人の間の問題は凡て體力で勝負を定めたものですがもはや疾うに其樣な習慣は去つて終ひました、同樣に國と國との間でも此昔通りの戰爭といふ方法によつて凡てを解快することを恥とする樣になつて參りました。然しこれも到底各個人々々の眞の融和か出來てからで無ければ、國際間の永久の平和といふものは保てるものではございませむ、決して平和の文面或は調印だけで此精神が貫かれる譯のものでは無く唯だ互に氣を寛く心を豊にして、其見界の異る所に同情し尊敬し合つて始めて地上の平和は見られるのでございませう。それならば、此世界人類を同胞とみるの念は何處から芽したものか、即今を距ると

千九百餘年前當時世上の爭ひの烈しかつた其折に、此世に生れ給ふた基督が鬪爭渦中にあつて、平和と正義とを說かれ、其短き生涯と敎訓とを以て、個人及社會に對する神意のある所を示されたに基きます、其神の御心を我等に充分會得せしめ給はむ爲に主イエス基督は此世に下つて我等を親肉の友の如くに惠まれましたが、其後二千年に近い今日に至る間人間社會は、引續いての戰亂の中にも一足一足と步を運むで、唯一點の光明を賴りに、今日の形勢にまでたどり着きましたのです。また私共が、此樣にして毎日暮して居ります間にも、神樣は、種々なる方法で吾々をお導きになり、嘗て基督の申された、彼の神國を地上に見るの基を築かしめ給ひます、主イエスの私共に望まれました所は他ではござりませむ、唯、神に對して、我「眞の父よ」と叫び得る者になる事で即ち基督御自身にとつては最も深く强かつた此觀念を、私共も又、日々の生活の中に感じ得る樣にといふので御座いました、考へてみますれば現代―即ち幸ひにも私共が生を亨けて居ります今の世では、生活と申します言の中に、未だ嘗て、史上に現はれた事の無い程、廣大な深遠な意味を含むで居ります、そして其「生活」の根本の意義は嘗て基督御自身も申された如く、一向に神を知り、又神の下し給ふた主イエス基督を知るにあることゝ考へられます。

編輯部より

△餘白をかりて編輯部より申上候、夏期修養會講演中、鵜澤博士の「婦人問題の將來」は博士非常に御多忙の爲め、未だ校閱を經るの暇を得ず、この號にも揭載叶はぬ事となり候、讀者諸氏と共に誠に殘念なる事に存ぜられ候

△マグドナルド女史の御土產話は、追々に繰り出さるゝものと思召下され度候、

△本紙は紙數極めて少く體裁にも何の粧ひなきものに候へども、一字一句世の青年女子に赤誠をもて捧ぐるものたるを疑はず候、何卒御愛讀願ひ上げ候。

△秋は讀書の好時節と申し候。家事に育兒に多忙を極めらるゝ御婦人は、名士の講演をきゝ、修養の友と語る時をお持ちになり難き事と存じ、この時に於ていよいよ讀書の趣味をお養ひなさる樣御勸め申上候。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

近頃の見聞と所感

三四子

△新紙によつて、傳へられた通り、この夏生蕃が東京見物に出て來ました。彼れ等は僅に布を纏ふたといふに過ぎぬ服裝して、裸足て、大手を振つて市中を練り歩いた、其の赤裸々な大膽な中に、いかにも心地よきものがあると思ふた。

△彼れ等生蕃は野蠻には違ひない、まだ智識は云ふ迄もなく幼稚てあらう。然し此處に巴里仕立の服裝に身を固め、英、獨、佛の各國語に通ずる紳士があるとしませう、一朝破船か何かの非運に遇ふて孤島に流され、此處に自ら木の皮を纏ひ、鳥獸の肉を食ふて生活しなければならぬ境遇に一變したら如何てありませうか、彼れ等はなほ生蕃よりも高き生活が果して營まれ得るてありませうか、只模倣に成つた皮相の文明は忽ち破られて、僅かに肉につける欲望によつて生活を支ふるのみなる時、彼れ等は終に動物の境界迄墮落せざれば幸である、我々は文明の虛飾に糊塗せる非文明人を見んよりは、寧ろ僞りなき生蕃人の遙かに罪なきを愛す。

△皮相文明は誠にはかなきものではありませぬか。私共は常に心の奥底から先づ開拓して、文明人の資格が、自ら生れ出づるやうにありたいものです。人の造つた文明には往々誤りあり、學者の說必ずしも眞ならず、指導者の言必ずしも我に善からず、人の毀譽褒貶の必ずしも正しからざる世に、右顧左眄して、人に問ひ、世に眞似る事のみを知つて、神の御旨を行ふ事を思はざる人は哀れなる者てありますかゝる人は誰れがその生活を正し、世に一步先んじたる行爲を大膽に爲して行く勇氣を與ふる事てありませうか。生蕃は無智にして裸足禁制の市中を裸足て歩む大膽なる行爲を敢てす、我れ等はわが信ずる主義を行ふ爲めには、無智なる者の如く、しかく大膽てありたいと思ふ。

△乃木將軍が歸朝の土產話として、かゝる事を語られた、「日露戰爭に於て日本は勝利と申さうか、先づ以て皇國の威光を墮さずに濟んだか、夫れより後日本は世界一等國に入つたと云ふ、併し思ふに日本は一等國の免狀を何處から貰つたぞ、歐州人のお世辭にウカ〳〵乘つて、彼れ等の長所に伴ふ惡い所のみ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を倣つたら大變である、今日の日本は其名のみあつて實がない、凡そ何事にも名のみ存して實なき程恥づべく憂ふべき事はない、否これより恐るべきものはない、歐洲人はよく働き、よく學び、よく實行する、今の日本人は然らず、夫に無闇にお世辭を云はれて之に乘るやうては困る、吾等はそんな事には構はず、今後は何よりも先づ其の實を擧ぐるに努めねばならぬ」と。誠に金言である。

△自動車を走らす國は、眞に一刻千金の多忙なる國民である、敢へて遊戲や、見榮に流行するのではない、宏莊なる建築や整へる道路は、其の大なる思想の產物であつて、決して一時的の付燒刄ではない、實を擧げんが爲めには深く深く、その原因に遡つて考へなければならない、かゝる時必ずや彼の國民の間に動く大なる精神の我れに缺くる者あるを見出すてあらう。もとより、彼我國民性を異にする所から、枝葉の點には、まゝ不快の感を與へて、つく／＼我が國民性をなつかしむ場合があるであらうと思ふ、然しこは西洋料理に飽きて、香の物の頻りに戀ひしきと一般、一時的の感情が多いのである。その捉はれから離れて公平に兩者を見る時、世界人類の爲めに、その文明を增進する爲めに、何れの國民が多く貢獻して居るでありませうかは、云はずとも明かである。

△然し乍らその結果を得んが爲めに、敢へて急せる必要はないと思ふ、否是れ迄は只上のみを仰いて、土臺を築く事を忘れて居つた嫌ひがある、私共は敢へてその財產、智識、品性を僞り飾る必要はない貧しければ、貧しいなりにその事實を知る事が向上の第一步である此處を土臺として眞に內より生るゝ文明を一步一步築いて行き度いものである、もはや人眞似の文明には飽きて居る、どうか神に計り、神の御旨に從つて我々はこの日本に永遠の文明を打建てん事に努め勵まねばならぬ。

△其の時に始めて我が國民の創始したる文明あらはれ、我が國民性は遺憾なく發揮するであらう。かく語ればいと遙に大なる夢物語をなすの感あるは悲し。然し何事も實現せらるゝ前は夢物語ならざるはなし。我々は必らずこの事の成るべきを信じ、しかもわが足を地に付け、わが手を絕えず働かして、着々其の實を擧げん事を務めたきものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

傳記

西班牙の聖女テレサ（下）

白井胤綠

▲然し反對は依然として四方から起つた、最も敎育あり感化ある人々はテレサの修道院設立を好まぬことを決議した、遂には國王の耳にも入り、會議の問題ともなつた、かくて如何にして修道院を建てるかと云ふ下問が出ると云ふ騷ぎとなつた、萬事甚だ不利益であつた、然しテレサは此う云ふ場合に何うして居たかと云ふと、彼は平常のやうに、神に祈り求むるの外なかつた、此の家は私のものではございません、汝の爲めに建てるのです、其れ故誰も此の問題を處理するものはありません。何うか汝が自ら之を處理して下さいとは、彼の祈であつた、さうして彼は此の事必ず成ると信じて、如何なる反對をも顧みず着々實行し、自ら建てた女子修道院に十二人の弟子と共に住んで其の目的に向つて進んだ。

▲彼等は決して富者に媚びなかつた、私共は富を欲ひません、私共は貧乏が好きです、私共は惡魔の力と戰ふ爲に進軍するときに、無用の邪魔物に掻き亂されたくありません。基督は私共の大將です、彼は其の軍勢を注意して下さいます、彼は私共をして餓死せしめるやうなことはありません。一體私共が苦しみますことが、何んですか、基督は私共の爲めに苦しまれました、私共は又彼の爲めに苦しまねばなりませんと云ふやうな態度であつた。

▲かくて聖ヨセフの修道院は、千五百六十二年に設立せられた。テレサは千五百八十二年、六十七歳の高齢を以て死んだ、彼は己が建てた修道院で、有功なる事業をなすこと二十年間であつた、そして各種の人間に尊敬せられ、西班牙の最も有名なる人々は皆な其の友人であつた、彼は生涯のうちに女子修道院を十六も設立した何れも改革的方針の下に經營せられたのである。而かも其の多くは大いなる困難と反對との間に奮鬪して建てたものである。トレドのカルメライト修道院を建てかけたときには、僅かに四ダカットの金しかなかつた或ものは其んな少許の金で何が出來るかと反對した、然しテレサは之

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に答へて「テレサと此の金とでは實に何んでもありません、然し神とテレサと此の金とで遣れば何んでも成し遂げられます」と云つた、彼は此う云ふ信仰で凡ての事を成就したのである。

▲彼は熱烈なる改革者であつた是れは實に彼の名を高からしめた原因であるが、また文學的天才としても彼は優に後世に傳へらるゝに足るのである。最も彼の書いたものは己が宗教上の經驗に限られるけれど、其れは深く且つ鋭い觀察力を有して居る、即ち自傳のやうなもの、色々な手紙、神秘的な文學、己が心的煩悶及ひ法悅の記錄、改革派の修道院を建つる事情を書いたものなどある。最も有名なものは靈魂が最も高き天に進み行く姿を描いたものださうである。彼の『思出の記』は、聖アウガスチンの『懺悔錄』、若くはトマス•アァケムピスの『基督の摸倣』などに似たものである。此頃の人民が少なくとも西班牙の人民は此等の書物を餘り讀まなかつた、然し歐羅巴に於ては非常に珍重して讀まれたさうである。

▲テレサは時の宗教家に對して飽き足らず感じたのであるが、決して法皇や自分の先生などに不從順なところはなかつた、彼が若し然う云ふ態度を取つたならば、法皇から僧籍に入れられるやうなことはなかつたであらう。教會の權威に服從して居間は、誰に對しても教會は何んとも云はぬ、ルウテルの宗教改革が起るまでは、加特力教會も隨分自由であつた

▲聖テレサが若し一世紀後に生れたならば、きつとマダム•ギヨンのやうな立場に立つたであらう。此の二人は色々な點に相似通つて居る、社會上の地位も然うである、熱烈なる宗教心に於ても然うである、救主を燃ゆるばかりに愛することに於ても、祈ることに於ても、精神上の煩悶に於ても、善的行爲に於ても確かに似て居る、二人ともにまた得易からざる詩人であつた、當時の知名の士と交際し、教育ある人々の間に重ぜられ、若い時には身分も好く、容貌も美しかつた、彼等の信仰は非常に神秘的で、或時は幻寫を見、何時でも合理的であつたとは云へないが、然し非常に深く、誠實な、且つ高いものであつた、二人を比較すると、矢張テレサの方が豪かつたと思はれる、是れは多くの人の認めるところである、彼の方がマダム•ギヨンよりも獨創的であつたらしい、殊に祈りのことについては、マダム•ギ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ヨンはテレサに負ふところがあつたやうである

▲彼の生涯と書いたものとの感化は、甚だ著しいものがあつた、加特力教會内のみでなく、新教徒の上にて其の感化の及んだことは夥しい、當時の貴婦人たちの間にも、崇拜者が多かつたやうである。佛蘭西の大思想家パスカルの如きも、彼に負ふところがあると云ふことである。

▲要するに彼は全く己を忘れて他を愛する精神に滿ちて居た、神の意志に悉く服從し、自己を棄て、神の言葉を深く冥想し、基督と一致契合すること、宛がら新郎新婦の形を以て形容せらるゝが如き有様であつた、是れは世々の徹底せる聖徒の生涯であつた、我等のうちにも此のやうな熱烈で、深く、且つ切なる信仰の盛んに燃え起らんことを願はねばならぬ我等の信仰は動もすれば形式に流れて、上滑りのするものになり易い、心の奥まで徹底し、基督の恩寵が眞に我等の生命となり、我の彼に知れるやうに、我も彼を知り得るに至らねばならぬ、我等の信仰は勿論合理的倫理的でなくてはならないのであるが、之と同時に神秘的な深いところがなくてはならないと思ふ、今日基督信者の内には形式的の信仰が少なくない、然うでなければ餘り深くない合理的な人が多い、合理的など云ふことを考へないものは、倫理的である、基督教を以て丸で一個の倫理教のやうに見做して居るものがないでもない、基督教は形式をも必ずしも輕んぜず、合理を重じ、倫理を大切にすると共に、更に進んで靈的な宗教であることを忘れてはならぬ、我等はもつと信仰的生活の工夫を積み修業をする必要があると思ふ、此の點に聖テレサの生涯は我等に多くの暗示を與へる。（をはり）

秋の歌

野人

絲瓜きつて水とる宵よもち月は秋のほこりの光り冴えたり

山里は朝は濃青に夕空は紫めかす秋を見せな

河原路に咲く花の名はしらざりし秋は何とか呼びてすぐらん

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日本基督教女子青年會 夏期修養會講演（二）

家庭に關するイエスの教訓

井深梶之助

家族制度の變遷

國民の道德、社會の幸福は、その家族制度の健全と否とによるは明白なる事實である、若し日本國民の道德に於て、他國に勝つて居る所があらば、吾が家族制度がその大切なる原因の一つであらうと思ふ所が近來段々と世の中の樣子が變り、西洋より新らしき考へが輸入し、昔から之れ斗りは變らぬものと思ふた親子、夫婦の關係に就ての敎へや考へ方までが次第に變つて來る樣になり、此にどうすれば將來家族の關係がよくいくかといふ問題が起つて來ました、尤も是は日本ばかりでなく西洋に於ても近年社會主義なるものか起り、或は工業の發達につれ、家庭の有樣が大分變化して來、それが爲に敎育家も政治家も心配して居る狀態である、近來歐米に於て公にされたる教育若くは社會制度に關する書物を見るに今日の家庭の狀態につき、識者の憂ふる樣が明らかに見える、斯くの如く現今內外の事情を考へて見ても、家族に關するイエスの敎訓を研究するのは、無益な事ではないと考へる。

此處に述べんとする問題

先づ家族に就て考ふべき事を、四ケの項目に分つ事が出來る、第一夫婦の關係、第二親子の關係――（普通には親子の關係を第一とするが、先づ夫婦の關係ありてから、親子の關係あるのが自然の順序と思ふ）――第三兄弟姉妹の關係、第四主僕の關係とこうなる。これ等に關して、僅か一時間の中に皆述べる事は出來ないから、此處には只夫婦の關係に就て述べ、且つこれ等に關して自分の考へを云ふのでは

なく、イエスの敎訓を考へたいと思ふのである、扨夫婦の關係に就ても、これを三つに分けて考へなければならい、第一夫婦の道即ち結婚は神の旨に適ふ正當のものなるか否、第二イエスは離婚を正當なる事とせるか否、正當とすればそは如何なる場合なるか。第三一夫多妻、——多妻とは多數の妻又は妾を持つことを——是認せられしか否。

第一結婚に就ては如何

結婚は爲すべきものか否、かういふ問題は今更提出する必要はないやうである。然し敎會の歷史を見ると、中古時代には男女共に獨身生活を以て結婚生活よりも更に潔き生活であると思ひ此思想が人心の底深く染みて居つた事が分る、それ故今でも舊敎の僧侶は獨身を守り、希臘敎會司敎等も重に獨身生活を守つて居る、天主敎會及び希臘敎會には獨身の司祭司敎のみならず獨身の尼の數多あることは人の知る所である。されば此れは今日無用の閑問題であるとは云へぬ、我々は能くイエスの敎訓を研究する必要がある、さて禁欲主義の起りは何時頃であるかといふに哥林多前書の七章の二十六を見るにパウロは今の災に因りて我婚姻せざる善しとす此の如くなるは人に善しといひ又我は凡ての人の我が如くならんことを願ふといふて居る、是は慥かに初代敎會に於て獨身生活を奬勵した一の原因であるが、尙一の有力なる原因はイエスキリスト自ら獨身であつたといふ事實である。神の御旨を宣傳するの大任を帶びて世に出たキリストは、一家團欒の樂しみを、思はず、遂に獨身の生涯を遂げられたのである。今一の原因は當時ローマ帝國の男女の關係が非常に亂れて居つた事である。ローマの歷史家、詩人が當時の狀態を書いたものを見ても其淫風實に見るに堪へぬものがある、それ故に眞面目な、清潔を重んずる基督者は遂にこの世の中を全く捨て丶、陰遁主義、禁欲主義を抱くに至つたのである。乍然イエスの敎訓を見るに未だ曾て婚姻を以て潔からぬ事となし、又は獨身生活を以て更に高潔なるものとせられた事はない、只馬太傳十九章に、「夫れ、母の腹より生れ來る寺人あり、又人にせられたる寺人あり、又天國の爲に自らなれる寺人あり、之を受納ることを得るものは受納るべし」とある是は生れながら病身の者もあれば、健康狀態が結婚に不適當なるものもある、或は敎への爲、道の爲に一身を捧げる者もある。と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

云ふ意味である。例へばパウロの如き人は福音を宣べ傳へる爲めに一家團欒の樂しみを犠牲にし、神の國の爲、道の爲に獨身生活を送つた人である。即ちこれを受納る事の出來る者は受納るべしてあつて、是は凡ての人の遵ふべき律法ではない、一の除外例である。それ故に馬可傳の十章には「然ど開闢の始め、神「人を男女に造り給へり、是故に人は、その父母を離れ、その妻に合ひて、二人の者一體と成べし、然れば二つには非ず、一體なり」とのイエスの宣言である、是れ即ち人の常道である、若しもイエスが中古の敎會の人の考へた樣に、結婚が正しからざるものとせられたならば、どうしてこういふ事を申されやうか、決してその筈はない、否、寧ろ結婚は神聖なる神の制度であると云ふべきである。それ故にパウロもわれ等もケパの如く姉妹なる妻を携ふるの權なきかといひ、又今の災に因りて我は婚姻せざるを善しとすと、申したのである。然らば夫婦の道はイエスキリストの敎へに依つても特別の事情あるもの丶外は當然人の履むべき道であり神聖なる關係であることは明日である。尚一つ此に注意すべきことがある。即ち「生れながらの寺人あり、又人にせられたる寺人あり、又天國の爲に自らなれる寺人あり、之を受納る丶ことを得るものは受納るべし」といふ言の中には、結婚は當人の任意であるといふ意味がある、ローマ國の習慣法律を調らべて見ると、嫌厭でも應でも結婚しなければならぬといふ時代があつた例へばかのオーガスト帝の或時代に於ては、人口が次第に減少して行くのを憂へて、もし結婚を避くるに於ては罰金に處せられ、それに反して結婚して多くの子を持つ人は褒美を與へたことがある、日本には別に、其やうな法律はないが、しかし隨分本人の意志に逆つて、結婚を強る樣な事は、今も尚行はれて居るが、是は能く考ふべき事である。

第二離婚に就ては如何

聖書に曾てパリサイの人がイエスの許に來て「人、その妻を出すは可か」と問ふたと記してある、パリサイの人は當時の學者であるがどうしてか丶る問ひを出したかといふに當時のユダヤの學者間には、離婚に就て二つの說があつた、一つはシャンマイといふ學者の稱ふる所、他はヘルレルといふ學者の稱ふる所であつて、互に云ひ爭つて居つたのである。

舊約の申命記二十四章に「人、妻を捨てこれを娶

れる後、恥づべき所のこれにあるを見て、これを好まずなりたらば、離縁狀を書てこれが手に交し、これをその家より出すべし」とある、之によりて見れば、モーセの法律は離縁を認めた事は明白てある。そうしてその離縁の條件としては「恥づべき所あらば」とあるが、シャンマイの說によれば、こは婦人たる者の最も恥つべき不義、密通といふ意味て、かゝる場合は離婚すべしと云ふのてあるといふに對しヘルレル派の人々は、「好まずならば」といふ方に重きを置き好まずならばといふは、嫌厭になつたら、その理由の如何に拘らず出して苦くないと主張した抑本文の「恥づべきこと」とは、原語ては醜きこと、裸なることゝ云ふ意味てあるが、妻の行ひにつき、夫の氣に滿たざれば、すぐ三行半を書いて差支へないといふのてある。一の極端な例を擧れば若しも妻がパンを燒き焦せば、離婚しても差支へないと主張した學者もあつた、かゝる狀態故、パリサイ人はイエスを試みるために此の問題を提出したのてある、然るにイエスは文字上の爭ひには一向頓着せずにモーセの法律に離縁狀を與へて離婚すべしとあるのは、まだ道德の劣等てある故に不得止一時假に設けたものてあることを示めし、しかして開闢の當初に立歸つて、「神は人をその初め男女に造り給へり、是故に人はその父母を離れ、その妻に合て二つのもの一體となるべし」と答へられた、(神が人を男女に造り給ふは開闢の初め斗りでなく、今もなほその通てある、一家族丈けては男ばかり生れる家もあれば女ばかり生れる家もあるが、一國、全世界に平均すると男女の數は略ぼ同數てある)而して、「神の耦せ給へる者は人これを離すべからず」とて、離婚を否定して居られる、然し離婚は絕對に出來ないのてあらうか。是れ又一の問題てあるが馬太傳五章に「姦淫の故ならて其妻を出し、他の婦を娶る者は姦淫を行ふなり」とある。若しも一旦主婦となりたる人が操を破り、不義を爲すものあらば、不得止離婚となる、此の如きは離別さるゝといふよりは寧ろ自分の行ひて夫婦の關係を破壞したものてあつて如此場合には離婚は當然の結果てある、離婚の事に付ては敎會も種々議論があるが、プロテスタントの神學者は離縁は只二つの場合に限り行ふべきものと認める、即ち一つは不義姦淫の場合、他の一つは惡意的遺棄の場合てある、使徒、パウロは「若し信者、不信な

る妻を有るか、又は婦不信なる夫を有ちて、その不信なるもの、自ら强ひて去らんと欲する時は、その去るに任せて可なり」と云ひ、又「此の如き事あらば兄弟或は姉妹つながる〻所なし、神の我儕を召給へるは、我儕を睦じく居しめん爲なり」(哥林多前書七章)と云つて居る、日本の一般の習慣及び法律は如何といふに、民法八百八條に「夫婦は協議を以て離婚する事を得」とあり、この他八百十三條に、「裁判によつて離婚することを得」と定められてあつてその正當の理由として認めらるべき事が十ケ條程もある、又實際我が國の離婚は如何なる割合に行はれて居るかといふに結婚千人に對し、英國二、獨逸二十、佛蘭西三十一、瑞西四十二、米國八十三なるに、日本は實に百七十六、六の多きに達して居るどうしてかやうに離婚が多いのであらうか。それに種々の原因があるに相違ないが一言にして云へば我國の人は容易に結婚をし、隨つて容易に離婚するのである最後に

一夫多妻に就ては如何

一夫多妻といふ事に對してイエスは明白に攻擊を加へた事はないが、しかし一夫一婦の主義を主張された事は確かである、且つ事實に於て、基督者程一夫一婦の道を能く守つて居るものはない、固より一夫一婦といふ事は、主義として、又道德としては一般に、正當な事と認められて居る、(モルモン宗は格別)法律上に於ても二人以上の妻は認めてない、然し理論上に於ては兎も角も實際一婦多妻を實行して居る人は少くない、而も此種の人は中流以上の人の中に多いが、中以下の人とてももしもその資力が許したならば矢張之を實行するかも知れない、それ故に是は單に實際だからでなく、眞實に道德上の主義として之を嚴守するや否やを考へて見ねばならぬ、我が國に於て一夫一婦の主義が嚴守せられて居らぬ爲めに、どれ程ゝ家庭が紊亂し、社會に毒を流して居るか判らぬ、ユダヤに於ても往古は一夫多妻主義であつた、ダビデ王もソロモン王も、皆多妻であつた、然しイエスキリスト世に出て〻、一夫一婦の道を唱へられて以來次第にその道が行はれ今日文明國に於ては貴賤上下の別なく一般に一夫一婦を以て正當の道と認むるに至つた、是は一身の利害の爲にも一家一國の幸福の爲にも、人類全體の爲にも最も大切な主義であるを確信致ます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

生命の生命

留岡幸助

基督教は我々の生命

私が基督教を信じてから、その恩惠を蒙つた事は實に宏大無邊である、キリストが生れて我等の爲に身命を捨てられたるにより、我々が今日生きて居る(靈肉共に)と云ふ事が云へるので、私の生命、財産を神に捧げる位何でもない事である。神の惠みは男女共通であるが、その共通の點に就てお話するに於ては敢へて男子が女子に向つてお話しても、的外れの事はあるまいと思ふ。頃日某氏が基督教國害論を書き、加藤博士が之れに序文を書かれた。今の世の中にキリスト教が國害であるとて排斥する人は先づ少いが、基督教などはあつても無くてもよいと思ふ者はまだ多からう、然しこの基督教が家庭を支配してくれなければ、よい家庭は出來ず、日本を支配してくれなければ、日本が道德的に宗教的に向上發展することは出來ぬ、我々の信ずるキリスト教は有つても無くてもよいといふよい加減のものではない。精神的生命より云へば一日も缺くことの出來ないものである。

聖書に現はれたる天國の比喩

聖書の中に、天國は漁師が魚を漁り、又畑の中に眞珠を探ぬる商人の樣なもので、一の貴き物を得んが爲に凡てのものを棄てゝその畑を購ふやうなものであるとかいてある。また他の所には天國は燈を執て新郎を迎へに出づる十人の童女に比ふべしと云つて、十人の中の五人は賢く、五人は愚かで、賢き者は、燈器と共に油を攜へたので、夜半過ぎて開かれた婚莚の席に連る事が出來たが、愚かなる者は油の用意がなくて、その場になつてこれを求めに行き、遂に門が閉ざれて、入る事が出來なかつた、天國は怠らずして求める者に賜はる眞の救である、また天國は葡萄園に工人を雇ふ主人に譬へてある。その園に九時に雇れたものも、十二時、三時、五時に雇れて行つた者も、同じ賃銀を與へられた、多く

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の時間働いた者が不平を云ふと、「友よ我なんぢに不義をせず」とて、その主人の考によりて賃銀を與へたのであるとて、「此の如く後の者は先に、先の者は後になるべし、夫よばるゝ者は多しと雖、選ばるゝ者は少なし」と云はれた。同じく馬太傳の廿五章には、天國を以て主人が旅行せんとて番頭に金を預くることに譬へてある。即ち主人は番頭の智恵才能に應じて五千圓、三千圓、一千圓を頒ち與へて、留守中然るべく取斗らつてくれと云ひ殘して置いた、やがて歸つて來ると、五千の銀を與へられた者は、之を運轉して他の五千を得、二千を受けた者も亦三倍にして居つた、主はこれ等を讃めてあゝ、善かつ忠なる僕ぞ、なんぢ寡なる事に忠なり、我なんぢに多きものを督らせん。爾の主人の歡樂に入れよ」と云はれた、然るに一千の銀を受けた者は失はんことを懼れて地に藏して置いた、主は之を見て、「惡しく且つ惰れる僕ぞ、爾わが播ざる處より苅り、散らさゞる處より斂むることを知るか」と云つて叱られた。これは實に面白い比喩で、生涯の中に何人も是非讀まなければならぬ處であると思ふ、この比喩の中には無限の參考とすべき教訓が含まれて居る、次第を追ふて述へて見やう。

第一、信用といふ事

主人が番頭に生命よりも大事な資本を任した。こは主人と番頭との相互の信用を意味して居る、人間として世の中に立つに、人より信用される事は大切なことゝて、また信用された仕事に間違をかけず、その主人に失望させぬ樣心掛ける事は大切なことてある、今日日本に於ては相互間に信用が缺けて居る。學問した人は多いが、金庫の鍵を渡すまで信用される者は少い。帝國大學から年々千名斗りの卒業生が出るが、その三分の二は就職難を稱へて居る、そして一方では官途でも、會社、商店でも、人がないと云つて求めて居るのである。

信用されるといふ事は愉快なことゝである、私はこういふ經驗を持つて居る、十九の年に同志社の神學校に入り、その翌年の夏郷里に歸らうとした時、同志社の女子部に同郷なる二人の女子が學んで居つたが、數十里の路を女斗りでは歸されぬ、誰れか信用の置ける保護者をと探した末、私が撰ばれて同伴する事となつたが、その時は實に愉快であつた、折惡しく大阪迄往くと大洪水があつて、途方にくれたが

二人を旅舍の二階に避難させると、川口のチングといふ宣教師が二人を宿屋の二階から船に乘せて一時避難させてくれた事を覺えて居る。とにかく、信用される事は愉快であるから、信用されたら、された丈けの事をすることが大切である。もしその信用を機會として、これに乘じて惡事を働らくと迄は往かなくとも、その信用に背く樣では、誠に賴まれ甲斐のない話である。駿州の國府津在に栢山村といふ所がある。此處は有名なる二宮尊德翁の生れた所である翁が三十六の時小田原の城主大久保忠眞公とて當時の御老中――今の內閣大臣に當る其方に非常な信任を受けた話がある、當時大久保公の親戚なる野州櫻町に宇津釟之助と云ふ旗本が高四千石を領して居つたが次第に衰微して、誰れが行つても回復の見込みが無いといふので、非常に困つて居られた、所が栢山村に二宮といふ經財に長けた者が居るといふ事を聞し召され　當時土百姓であつた金次郎は拔擢せられて、一躍して武　分になり、直ちに旗本の經濟を任された、この時公の云はるゝには「汝は信用の出來る人間故、十年間會計報告せずともよき故、思ふ存分遣つて吳れ」と云はれた、斯くの如く公の信任の厚いのはたゞならぬ事であるとて、尊德翁は十年間身命を投げ出して奉公したと云ふ事が日記に書いてある。實に信用の力は偉いものである。

私共は始終出獄人とか、不良少年とか、惡い方面の人斗りを敎育して居るが、これ等の人々は信用すれば信用する丈けよくなつて行くのは事實である。それ故感化院といふべき處を家庭學校と云つて居る設立當初一二年は、家庭學校といふので、ドメスチク、スクール、と間違へて、女の子を連れて來た人等が澤山あつた、その構えも毛頭牢屋風でなく云はば別莊のやうである。此處で感化されて立派になつた人が先日も來て「實は連れられて來たあの晩、逃げる積りであつたが、餘り居心地のよい所だから居て見やうと云ふ氣になつて遂に眞人間になりました」と云つて居た、斯くの如く信用と云ふ事は敎育上に偉大の力を有して居る。

神は我々如きものをも御信用になつて、生命、財產をも任せ給ふのである。この御信任に感激して、自らその責めを完うせんと務むると共に、一方では神の我々になし給ふ所に倣つて、我々も人々を信用しなければならない。「人を見たら泥棒と思へ」と云

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ふのは、人を神の子と信ずるクリスチヤンの態度ではない、少々間違つてもと云つては語弊があるが、ドッチかと云へば信用する方が大切である、自重と云ふ事は信用によつて發揮される。我々はその爲す所の仕事を自分の者としてやる時は、よい加減の事は出來ない、況んや神の任せ玉ふ天職に働く時によい加減のことをして誤間化すことは出來ない、全力を揮ふてその事の成功するやうせねばならぬ、自分の仕事よりは神の仕事は尙大切である。

第二、增殖を計る事

第二に大切な事は、神樣より托されたる仕事は增殖して行かねばならない、五千圓を與へられたものが五千圓を儲けたやうに、傳道は勿論、政治であらうと、慈善事業であらうと、家庭内の事であらうと皆自身の預つた事によつて、幾分なりとも否大に其仕事に進歩を見なければならない、私は大なる疑問がある、基督教が日本に傳はつて以來、一向盛んにならぬのは何故か、農業では、一粒萬倍といふが、宗教の仕事も其發達につきては同樣であるべきであるのに、却つて基教界の今日は十年前のそれに比して減りはしないかと思はれる位である。

元來增殖せぬのは何故か、農夫がよい收穫を得ないのには三つの原因がある、第一氣候が惡いことこれは天然の原因であるから、人間に罪はない、之は丁度基督者が時勢が惡いと云ふ嘆息に相當して居る、第二の原因は農作物そのものにバチルスが附いて居る、それ故實りが少い、即ち基督者自身に發達しないバチルスが付いて居る、腐敗の原因がある、第三は收穫の少いのは農業者の怠慢から來ることで聖書の中にも先づ働きたる農業者先づ實を得べし」とある、宗教上の働らきも同樣であつて、一生懸命働らかなければ、その結果は得られない、かく農業の事は移して以て宗教の事に當て箝めることが出來る、時勢の惡いのは少しく辛棒すれば直る、他は皆自分自身に責めのある事である、もし自ら鞭打して戒め勵むに於ては、神より預りものを增殖して神に返へすことが出來る、其處に人間の進歩發展がある基教界が十年前も今日も、尙違はぬといふに於ては其處に何等か猛省する所がなくてはならぬ。

第三、天分に高下はない

第三は人各々性質、技倆が違つて居る、違つて居るからつまらぬといふことはない。人各自性質、技

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

倆相當に、與へられたる天力を、完了することが大切である、」私は或女學校に行つてお話した時に、或女生が「私は男になつて見たい」と云はれたので、「それは以ての外の事である、男女とも神樣が作り給ふたのだ、常にアーメンと稱へて居るからには、神樣のし玉ふ間に〳〵にする事が一番よいのである常に斯く信じて居ながら、神が女に作つた事を恨むとは何事であらうか、人に天職として與へられた事に大小高下はない、大きい仕事を偉いとし、小さい仕事をつまらぬといふのは、虚榮心の然らしむる所である」と、云つた、虚榮は男子よりも女子の方に多いやうである。この點に省みて修養して戴きたい、德川時代に備中に室鳩巢といふ學者が居た。その人の書いた『駿臺雜話』といふ書物に、こういふ歌がある。

朝顏の花一時も千年經る
　松にかはらぬ心ともがな

朝顏をこんなに愉快な意味で讀んで居る歌は少い松の千年も、朝顏の一時も、各々天命を盡して居るのである、いくら命が永くても、松には朝顏の花を咲かす事は出來ない、その分を守つて居る處に價値がある。人も男女と生れ、その委ねらるゝ仕事に大小廣狹の差はあるが、それは人間の目に見える差別て、神の目から見玉ふ時は決して職分に貴賤上下はない、職分の違ふのは神が何等かの必要あつて分ち給ふたのである。我々は其處に信用を置いて、忠實にその分を守らなければならない、鳩巢先生は朝顏の花一時の歌が非常によいと云ふので御自分もその意味の歌をよまれた。

天地にうけしまことをそのまゝに
　咲いてはしぼむ朝顏の花

かやうに天眞爛熳、我は我、人は人といふ確信を以て自己の託せられたる職を務めることが、大切である。

第四、活動せよ

第五は千圓の金を依託された番頭が、之を地に藏したといふ事に學ばなければならぬ、私は何が罪だと云つて、千圓の金を地に埋めて置く樣に、何事もせずに、空しく日を送つて居る程、罪の事はあるまいと思ふ、苟も我々が招かれて基督者たる以上は積極的に進んで、益々神の御用を務めなければならない、日本に現在十五六萬の基督者があつて、なほ數

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會の振はないのは、その分に應じて充分働からうとする活氣ある人間が尠いからである。罪は不品行をしたり、金錢を誤魔化す計りでなく、彼より賜りたる力を用ひないのは罪の內でも最も大なる罪である。善良なる基督者は絕ず活々として居なくてはならぬ。

第五、責任を思へ

番頭の譬へより考ふるに、基督者の生涯は責任の生涯である、人間が自暴自棄に陷るのは責任を忘れるからである。私は少々頭痛がしても、熱が出ても自分の仕事を休むことをせぬ、自分が休む事によつて、いろいろ仕事に差間へを生ずるからである、少し我慢して仕事に就けば、何時の間にか癒つて終う風を引いたら、自轉車に乘るか、薪を割るかして發汗して了ふ、藥で治すよりも勤勞で直せば害がなくてよい、若し我々が責任を感ずるに於ては、一人が十人を働かし、十人が百人を働かすことが來る、責任を感ぜしむることは、人をして活動せしむる所以である。私の四番目の娘が幼少の時よく泣く子で、荊妻も手こづつて、終ひには叱るが叱ると愈々泣き出す、泣くことを止めさするには私は色々と工夫をした、私は、或時此子の泣くことを止めさせやうと思つて傍にあつた、座蒲團を丸めてその子の背中に負はせ「お前はこれからお母さんになつたのだから、泣いちやいけない」と云つた所が今迄泣いて居つた子が御母さんになつた積りで、背中のベビーを手て敲いて泣きを止めたのでありますこれは子供乍らに母親といふ責任を感じたからである、人は其位置へ据へるならば責任を感ずることによりて大概の仕事はヤツテのけるのであります。火事の時、か弱き女が四斗俵を提げて出たといふ話もある、人が一朝責任を感ずると火も水もあつたものでない、非常な力を出すものであります。基督者の生涯は責任の生涯である、瑞西の教育の泰斗ペスタロッチはその當時世の中からは基督者でないと云つて攻擊されたが、今日私共から見ると立派な基督信徒である、晚年イエルドンに學校を建てた頃は、世の中から其事業を認められ、帝王も役人も學者も誰もかも參觀にくるといふ、有樣であつたが、然し學校內は腐敗して、敎員間の軋轢激しく、衰運の徵は早くも此處に萠して居つた、或年の元旦、ペ氏は祝賀式場に棺桶を据えて演說して曰く「私は年老いてもはやこの棺桶に入らねばならぬ、然しこの棺の中に這入り、神の御

前に召されて、此の世で爲た私の仕事につき報告しなければならぬ、學校が今日の樣な狀態にあってはどうして報告することが出來やうと云って泣いて演説したのである。これは自分の仕事は神より直接に授けられたるものであるから、もしこれを害ふに於ては、神に報告が出來ぬといふ意味である、お互ひは他日神の前でこの世で爲した事柄につき報告しなければならぬ、責任を持って居る。つまらぬ、人の尻馬に乘って迷はされたり、毀譽褒貶で動かされてはならぬ、我々の生涯は神から與へられた尊いものである。どうか右の五ヶ條を記憶して、神に全身全靈を捧げて私共の生涯は全く神の御爲に用ひられたいものである。亡くなられた、奥野正綱翁の歌に

キリストを人に見せばやわれはその
後ろにだにもありと知られて

といふのがある、誠に我々はキリストの背後に隱くれて神の御榮光を現はすやうに勤めたいものであります。

ジヨルダン博士の講演

米國スタンホード大學の校長にして、今回萬國平和協會より使命を帶び來朝せるジヨルダン博士の人格に一度は接して見たいと思ふ、青年會館、帝國教育會、及び諸所の學校、公會堂に於て晝夜講演が行はれたが僅に私は女子大學に於ける「女子高等教育論」を聞き得たのみであります。當今の如く内外に亘り解決しなければならぬ問題多くなり、働らかねばならぬ仕事多くなりし復雜の社會に、男子が家によい助け手を要すると否とは非常の相違であらう、また社會に於ても女子の手を以て大に施さなければならぬ仕事がある、例へば町の衞生、矯風事業等何程でもある。かくの如く男子のよりよき半面となり、社會、國家の重大な仕事をになふべき婦人がどうして、教育なくして可なりでありませうか殊に「よき親はよき子を生む」とは宇宙の方則である弱い子、不良少年、低能兒は凡て惡い親から生るゝものである、この意味で如何にして女子の教育が男子と同樣に重んぜられないでよからうか、尙子はこれに附加して、婦人に平和の實行者となられん事を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

希望する、戰爭には避くべからざるものもあらう。義戰もあらう。然し多くの場合戰爭は不必要である、殊に戰爭によつて多くの悲劇を見るは婦人である、どうか婦人方が完全な教育を受けて、必要なる働らきの爲めに盡瘁せられたきものである。と。

尙大日本平和協會主催の講演會に於ける「平和」といふ講演こそ、博士の本領を發揮したるものなれば東京朝日新聞所載のものを摘記して見ませう「戰爭の慘禍は今改めて之を說くを要せじ、日本士官の著述なる肉彈の一篇に徵するも明かである、戰爭は獨り悲慘を極むるのみならず、又最も不廉なるものにして、歐州は之が爲めに現に每年軍備費として百億を費し、既に戰爭の爲めに負へる債務五百二十億に及ぶ、然も此巨額の負債は眼に見えぬ帝國に住む眼に見えぬ人民の爲めに支配せられて居る、予は曾て巴里に於て一農民の肩に完全なる武裝をなせる兵士の跨れる戲畵を見たりしが、更に此兵士の上に十七人の公債を手に握れる人を乘せなば一層妙ならん十七人とは他なし、現代歐洲の金權を掌握せるロスチャイルド氏、其他の債權者である。

米國の如き平和國に於てすら、軍備の爲めに費す所、徵稅年額の約七割に達す、桑港の住民が太平洋沿岸防備の爲にする納稅額は一人平均年二十圓に相當す、然も今日の戰爭法たるや往時と異り、種々の科學的發明を利用して、極めて大仕掛なるが故に、一發の砲彈に約六千圓を要するの有樣なり、而して戰爭の不廉なるは獨り經濟上のみに止らず、他に更に大なる犧牲は、國民中の健全有爲なる優良分子を失ふにあり、希臘の衰へ、羅馬の亡びたるは其原因全く玆に存す、三十年戰爭の爲めには二千二百萬の人口が八百萬に減じ、奈翁戰爭の爲めには、全歐洲の壯丁三百二十萬を失ひたり、後に殘るは自から劣等なる悪質者ならざるを得ず、是れ、豈軍費以上の犧牲にあらずや。

然らば則ち平和に達する手段、方法如何。予は玆に三箇條を指示するであらう。一は戰爭自身の精密なる調査である、二は平和に關する確實なる輿論を作るに在り、三は戰爭を根本的に廢絕する方法として、仲裁裁判制度の確立を圖る事である。戰爭自身の調査精密に行はれて、如何に戰爭によりて、經濟上の利益を得んとする者が陰に陽に之を操つるかを知りて、平和の輿論確立、仲裁裁判の基礎確乎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たるに至らば、百年の後には、今日の軍艦大砲の如きは、一種の參考品として博物館に陳列せらるゝに止まらんと。

帝國教育會に於る、「品性陶冶」の講演は甚だ興味ある一つである。今「護教」所載の中から、餘白の許す限り摘記して見やう、「人は皆父祖より其の性質を遺傳して居る、父より四分一、母の方より四分の一遠祖より十六分一といふやうに、遺傳がある、……動物を改良するには、先づ良種を選擇して善き遺傳を受けしめなければならぬ、この方法は動植物に共通にして又た人間にも適用ができる、種族の改良には凡そ、二の方法がある、教育によりて個人を立派にすること、善い人より善い胤の出るやうに選擇することである。それから先祖を良くすることであるこの根本の道理に基き、種族を淘汰する工夫が要る品性造營とは之を言ふのである。……男女の配遇選擇は個人の自由である。歐米にては男女が自ら配遇を擇び、其兩親にも相談せない事がある。是は自分の事は自分でするといふイニシエチーヴの力を養ひ又た愛の力を養ふ効益がある。(編者記)

各地に行はれたる修養會々報

◎妙義山上に於ける外國人の修養會

△口繪參照

幽邃にして眺望に富める妙義山頭は、修養會の場所として好適なものであります。會場は妙義の村里から稍々離れた山の中腹にある古い宮殿を拜借しましたのです、その宮殿の背後は險阻な岩石が巍々と聳えて居り、前方は啓けて丘や谷を越えて、稻田に注ぐ水のうねりも見えます、宮殿は亭々たる杉の並樹に隣りして、その並樹の下には山上の寺に行く石の階段があります。

此處に我々は一二の期持を持して、輕井澤の避暑地から集りました、その人々は宗教學校の教師、布教傳道に從事して居る者、青年會の幹事、其の他でありました、我々の會合は重に儀式張らぬものであります。それもその筈、僅か會合の五日前に案内を發したのでありましたから、然しこれがまた却つて修養會の特性を現はす所の、自發的會合や、美はしき友情を加ふるに力ありました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

順序は聖書研究、協義、親睦の時間等を含んで居りました、日本基督教女子青年會の幹事ミス、マグドナルドは二つの聖書の組を導かれました、その題目は「神に對するイエスの思想」、「人に對するイエスの思想」等であります。イエスに從ふ者によりて神の國を臨らすといふ、イエスの確信は、新らしき方法で說明されました、而して此の態度は、我々の生活し働らく所の人の間に社會的關係を結ばんとする時、重要なる一つの要素なる事を誇張されました、この說は、會員各自が、日本人と友情を結びし自身の經驗を語つて更らに內容豐富と爲りました、そしてそれはクライストの結び合ふ愛が友情の始終に外ならぬといふ深き感想を與へました。

一夕は日本の女子青年會に就て考ふる爲めに捧げられました、ミスター、ウインザーの新紙に揭げられたる、「現今日本に於ける宗教の立場」といふ問題は一朝の論題となりました、そして神道、佛教等多くの宗派の教義に就ての明らかな說明や、宗教の働らきに就ての彼自身の豐富な經驗から、我々が學んだ凡ては、とても、書き盡されません。

恐らく會員に會の有力なりし一つは多年日本を家と呼んで居つた所のこれ等の人々に、各自の經驗を分くるを得たる特權であつたらうと思はれます。

修養會は文學の問題を論ずる事で閉ぢました日本語英語の書物の特に撰び記されたものが提供されました、そして多くの出席者はこれになほ多くの暗示を加へ、議長はこれを書き記しました。

二日は時の間に過ぎ、或人はもつと親睦の時を取りたいとも思ひましたでせう。然し會員何れも同じ結論を持つた樣に見えました事は、同じ會合を來年も亦開き度いと云ふ事でした、我々は妙義の修養會にありて知己と經驗とを新たにし、否一層深く新らたにした樣に見えました。

◎盛岡女子青年會主催の夏期修養法

八月二十一日より二十四日迄三日間、デントン氏方に盛岡女子青年會主催の修養會を開く、これより先き委員等はこの修養會の盛岡婦人を救ふて、盛岡市にリバイバルの起らん事を期し、每朝五時半に盛岡公園に、或はデントン氏の庭園に、早天祈禱會を催し、熱心神の御祝福を祈れり。

その日となれは、東京より石原菊子女史來り、支

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

那傳道に赴かんとするウイケンドン女史も來る、盛岡市の婦人中には、或は車馬の便なき田舍より山越え野越え態々來會したる小學校敎師もあり、多忙なる家事を繰合して來會したる主婦もありて、中々の盛會なりき。

聖書研究には千葉神學博士の「未信者に聖書を紹介する仕方」「歐米現今のキリスト敎界」等、適切にして有益なる講話あり、一日は親睦の爲め、各自手製の辨當を持して郊外に遠足し、雄大なる自然に接して神の御業の計るべからざるを思ひ、友の心のうれしさを味ふ、僅か三日なれど一同はこの修養會に於て新らたに神の御力に充たされ、初秋の働らきの上に一層の御祝福の下るべきを信じて散會せり。

◎米國女子青年會夏期修養會

同會書記報

米國紐育シルヴアベイ女子青年會夏期修養會に於る外國代表者は日本人十四名、支那人九名バアミス人一名(印度東部人)メキシコ人二名(其中一人はポルトリカン人)其の他佛國女子青年會幹事一名、英國倫敦萬國基督敎女子青年會通信書記一名でありました、これはたゞ各國民を代表した計りでなく、多くの學校、趣味、目的、職業も亦代表せられたと申すのです、支那人中チヤワンといふ唯一人の官費留學生がありましたが、同孃の母は支那纒足禁止會の會長で、また某女學校の校長であつて、同孃も歸國の後は其の女學校に敎鞭を取るとの事であります。

又日本の代員中、紐育ベレヂ病院より來れる人は日露戰役當時、赤十字の看護婦たりしといふ有名なる人にて、米國に來りて後は、シヤトル、セントルイス、ヒラデルヒヤ、ニユヨルク病院等にて業を卒へられました、同孃の目的は日本に於ける各種の看護婦の學校に、最も新らしき看護術と學理とを普及する事であると申します。

各國の代員は各聖書研究會に列席しました。重にクリスト傳を撰擇し、何れも深き興味を顯はしました、最初の週の休息の時間は親睦會の準備の爲めに費されました。

日本人と支那人の如く餘興に意を盡し、且つ喝采を拍した者はありませんでした、支那人は各生地により言語を異にする爲め、同國人にて話す時も、研

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

究する時も、歌ふ時も、凡て英語を用ひました、此點につき、幸福なる日本人は一同にて「平和の船」を合唱しました、これは日米戰爭の噂の無根なるを傳ふる時節柄とてよい工夫でありました初め親睦會の爲め集りし各國代員は、互に會合を續けて、本國につき、米國につき、學校につき、天職につき、視察を比較研究して、互に益したる所多かりしのみか親密の度の增進を計りしは、偏に此の會の賜ものでありました。

◎英國學生青年大會の記

在英　宮川幹技子

大會は三回に分て開かれました、私の出席したのは第一回で、七月七日から十四日迄で御座いました第二は十四日から二十一日まで役員の爲めに、第三は二十一日から二十八日迄で、第一回と同じく普通會員の爲めて御座いました、會場地スワニックは英國中央に位するダービーの小村、眺望の勝れて美しい處で御座いました。

　七月七日午後四時半、特別列車をバタシー驛に下車した學生は四百を越えて居たでせう、手荷物はブラットホームに山をなして居りました。やがて委員の案内で野道を辿つて行く程に新築の宿舍（女子のため）と大（集會場）小（男子宿舍）のテントは現はれました、庭園は廣く、テニスコート、水泳場の設けもあり、殊に小形の日本式の庭や、咲き亂れて居るバラの花壇など、私共の注意をひきました、宿舍に着いて第一に致しました事は、厚紙の名札に姓名と校名を記して胸につける事でした、かくて識れる識らざるの別ちなく、親しく語を交し始めました。

　第一の集會は午後七時から大テントに於て開かれました、夕陽西の森に沈まんとする頃、牧場に草食む羊の聲の外は音もなき靜かなる別天地に、心を同じうする幾百の兄弟姉妹等と共に、主の御前に跪く時、わが心の淸められ、高められたのを覺えました、講師の靈氣に滿てる聲は天來のそれの如く聞えました、夕飯後、組々（一組は組長の下に十人乃至十五人なり。）の祈禱會あり。此處にては組長のすゝめ、肝要なる報告等がありました。

　翌八日から十三日まで（日曜を除く）略同樣の集會か日々開かれました、其の講師は重に大學の敎授及有名なる牧師等で御座いました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

まづ午前の集會は九時半に始り、十二時十五分に終りましたが、其の種類は聖書研究、外國傳道、社會事業等が重要なる問題で御座いました、午後は遠足または競技會に費し、再び新たなる心を以て集ふ夕の集會にては、心靈の修養に關する有益なるお話を伺ひました。

日曜日には例の聖書研究後聖餐を守りました、英國敎會に屬するものは、同村の會堂に於て、自由敎會に屬する者はテントに於ては其の他クエーカーの集會もテントに於て同時に開かれました。

同午後三時から外國よりの代員歡迎會が開かれました、代表されし、國別は、獨、佛、露、スキッランド、スエーデン、ハンガリヤ、印度、南阿弗利加北米合衆國、カナダ、日本等で、數名の代員の有益なる小演說がありました。

樂しかりし一週間は夢の間に過ぎて、十四日朝私共は名殘り惜しみつゝ、西に東に別れました、此の大會に於て私はたゞに宗敎上の智識を廣めた斗りでなく、多くの朋友を得たのみならず、餓え渴くわが靈は日々に養はれて元氣を恢復し冷えつゝありし信仰はもやされて、新たなる自覺を得、神のわが上に下し給ふ恩寵のいつも變る事なく大なるを一層深く知るを得、日々感謝して居ります。

女子寄宿舍

基督敎女子青年會は
小石川區水道町二十八番地及び
牛込區納戸町四十五番地
の二ヶ所に寄宿舍を設け女學生諸子の爲に及ぶ限りの御世話を致して居ります
右の寄宿舍は門倉ふじ子、大西絹子の兩氏が親しく監督して居ります此の帝都に家庭又は適當の保護者のない女子をして眞の家庭に於けると同樣の勉强の出來る樣にするのが青年會寄宿舍の希望であります
入塾希望の御方は願書を監督者門倉ふじ子或は大西絹子に宛てゝお送り下さい
なほ同舍は一時の宿泊も許しますから講習等の爲に御出京の方々にも宿泊の便宜を計る事が出來ます

寄宿舍委員長　新渡戸まり子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會の消息

◎日本基教女子青年會

△ミス、マクドナルド歸朝につき、常例會を早め、九月三十日午後二時半より委員會を開く筈。

△前號詳細に報導したる、鵠沼に於ける夏期修養會の出席者内譯左の如し。

宮城女學校十三、山梨英和女學校八、日の本女學校五、捜眞女學校二十。フエリス女學校一、大阪ウヰルミナ女學校二、大阪プール女學校二、共立女學校十一、バプテスト女子神學校一、女子英學塾九、女子大學三、女子商業學校二、麹町高等女學校一、女子高等師範學校附屬高等女學校三、小石川傳道女學校二、青山女學院九、學習院一、女子學院九、福岡英和女學校一、四ッ谷頌榮女學校一、フレンド女學校一、函館女子青年會一、小石川女學寮一、盛岡女子青年會二、東京青年會二十二、出席者總數百七十九名、内信者百五十四名、未信者二十三名、尚内容を以て別てば教員幷に傳道者三十六名、學生八十三名朝鮮女學生二名、支那女學生一名、西洋婦人十四名客二十名。講師十三名、修養會委員十名

◎女子學院女子青年會

私共の學校は全校生徒が二百七八十名御座いましてその内百餘名が寄宿舎に居ります本科一年生から高等科三年生までは年限も大分長う御座いますから少い人は十三四才で、大きい人はそれより七八歳も年長なので、自然の都合上、會が幾つにも分れて居ります。それで青年會員は最上級の高等科二、三年生のみです、高等科一年から下つて本科四年生までが共勵會員で、その以下は愛女會と申して、少い姉妹ばかりが會員です。

もとより會は皆、毎日曜日の夜七時から八時迄ときめられてありますから、自然寄宿生斗り集る事となります。この爲め通學生の姉妹方と直接關係を持つ折の少い事は誠に殘念に思ふ所であります。

扨青年會は現今二十名程の會員があります。正會員と准會員とあります。後者は未信者の會員で僅に二人あるのみです、役員は生徒のみで、會長、副會長、書記、會計と御座います。そしてその下に音樂員、裝飾員、祈禱員、仕事員などがありまして、それ〱仕事を分擔致して居ります。

働らきと致しては別にありませんが、重な事は外村氏の貧民事業を少しお助け申す事と、佐渡の傳導の爲めと、芝の貧民學校のためと、孤兒院などの爲めに金錢、物品などを以てお助けいたし、その他は青年會員が共勵會、愛女會など、少い方の會のために時々お話をしたり、お助けしたり致します。また時々は編物、裁縫等をして少々づゝお金を拵らへて居ます。最も困難な事は、御存じの通り會員が少

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

いものですから、いつも財政に差支へて居る事てすこれからは何かよい方法を考へて。出來る丈け進歩させ度いと思つてます。(岡村もと子姉報)

◎青山女學院青年會

希望多き新學期を御迎へ遊ばされ候折から、諸青年會諸姉にもいよ〳〵活氣に充たせ給ふ事とぞんじ上候。左に一つ二つ當青山女學院青年會の仕事を御通知申上候。御參考とも相成候はゞ嬉しく候。

△社交日と名つけて火、木の兩曜日は上級生が下級生と、會員が非會員と運動時間に成る可く共々に散歩を致し候。僅に十分か十五分の間故、重き話など致さず候も、度重なるにつれて、云ひしれぬ親しみを感じ候。斯くして斯かる間に會の氣風を校內に張らし度く、合せて共に神と人との爲めに爲す處あらんと存じ候。

△花園は只今の處矯風部員が專ら手を下し居り候。會のものとして二つの花壇を設け、時節柄なる草花を植え、朝夕二三十分水かひ、蟲捕り等の世話を致し候。培養にはそれ〳〵專門の智識を要する事に候へ共、目下の會長は殊の外此の道に熱心に候へば、其の結果中々良好に候。斯くて美はしく咲き出で候ものは、カードや手紙と共に校內の敎師、生徒及び其の家族、日曜學校生徒及び其の家族等の病める枕邊に御送り致し候。時には講堂に或は各敎室の机に愛らしき笑顏を見せ候。極々些細なる事の樣に候へ共、色あざやかなるダリヤに神の御惠みを味はれ、露重げなるカスモスに神の御榮えを讃ふるに餘りある次第に御座候。鍬を握るも道のため、御暇の節は是非とも御試み遊ばされん事を御すゝめ致し候。(山本たけ子姉報)

編者より青年會諸姉に申上候。いつもお願ひ致す通り、會每の報告、御手數乍ら必ず御回し下され度、殊に財政の爲めにはかくかくの働らきを致して居るとか、働らきにはかやうの方面を加へたならばいかゞとか申す御思付きは、各青年會發展の上に一方ならぬ參考と相成る事に候まゝ、成る可く委しく御通知のほど願ひ上候。

新刊紹介

△**子供の權利** 田村直臣氏が七八年間集めたる材料を基としてもし子供に心あらば「私は物品でもなく、又獸でもなく、飽迄も人間の一部分なる子供であります。私は小供であるからには、親の所有品ではなく、神樣のものであります。私には神樣から與へられた子供としての權利がある」と云ふであらうとて熱心に子供の權利を世の親や敎師に知らしめんとしたるもの。行文極めて平易なれば、何人も容易に讀むことを得べし。發行所東京京橋區尾張町二丁目十五番地警醒社書店、定價金五拾錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

廣告

院長診察（月、水、木、金、午前
入院診斷後應需

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院

電話本局　八八八（病院用）
八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二
御茶水橋附近

院長醫學士高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町相海濱
從停車場半里

電チガサキ二番

南湖院

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

院長診察、土曜日午後、入院、診後應需

National Committee

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Sarah Ellis, Secretary
Dr. T. Inouye Treasurer
Miss Michi Kawai, Member World's Committee
Miss Sumi Miyagawa, Corresponding Member World's Student Christian Federation

Resident Members
Miss A. B. West
Miss Hama Hirano
Mrs. Koharu Nakajima
Miss Uta Suzuki
Miss Tami Mitani
Miss Matsu Okonogi.
Mrs. A, M. Fsher

Non-Resident Members
Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. K. Araki, Osaka
Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss M.F. Denton, Kyoto
Miss Wynne-Willson, Nagoya.
MissCharlotte De Forest, Kobe.
Miss M. Brownlow, Hakodate.
Miss Worthington, Kure.

Miss A. C. Macdonald, General Secretary
Miss Margaret L. Matthew, Tokyo Secretary
Miss Mary S. Kerr, Office Secretary
Headquarters 41 Sanbancho, Kojimachi, Tokyo.
Miss Matsu Okonogi, Editor.

部數	定價（郵税共）	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五拾錢	金壹圓

廣告		
一頁	金六圓	
半頁	金三圓五拾錢	
半段	金貳圓	
一行	金貳拾錢	

明治四十四年九月廿八日印刷
明治四十四年十月一日發行

發行兼編輯人　東京市麴町區三番町四十一番地　エー、シー、マクドナルド
印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎
印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍

燈火親む可き此の秋に
御婦人方の爲に
二つの本を提供致ます

松村介石先生著

婦人の心得

定價金參拾五錢
郵稅四錢

青年の修養家としての、松村先生を知らない人はありませぬ。今先生は、その廣い經驗と、多年の修養とにより、婦人の爲に、其心得を說き給ふのであります。舊式の女大學に飽足らない現代の女性は新たに自己を制す可き道德の爲に煩悶したまふでせう。本書は必ず新しき女の道を諸姉の前に造るものであります。

田村直臣先生著

子供の權利

子供は壓服す可きものではありませぬ。然し、野放しにしておく可きものでもありませぬ。子供には子供の魂があります、之を導いてやるのが、本當の子供の爲の教育であります。

東京京橋尾張町　警醒社書店　振替五五三

明治四十四年十月一日納本發行 (毎月一回一日發行)

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN.

Meiji no Joshi

Volume. IX *October, 1911.* *No. 9*

Thankfulness — Miss Matsu Okonogi.
Greetings — Miss A. C. Macdonald.
Thoughts on Current Events — Miss Miyo Kohashi.
Spanish St. Theresa — Mr. T. Shirai.

Summer Conference Addresses.

Jesus' Teaching Concerning the Family — Dr. K. Ibuka.
Life within Life — Mr. K. Tomeoka.

President David Starr Jordan in Japan.

Summer Conference Reports.

Myogi Conference
Silver Bay Conference
British Conference — Miss Mikie Miyagawa.

Association Notes.

Joshigakuin, Aoyama Jogakuin.

The Official Organ of the National Committee of Young Women's Christian Associations of Japan

(東京神田美土代町 三秀舍印行)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA